

理想の電気技術者

東京都立多摩工業高等学校 電気科 3年
室作 宙夢

私は将来、電気技術者として、社会の安全と発展を支える仕事をしたいです。

電気の仕事に就きたいと初めて思ったのは、小学生の頃です。小学校での電気回路の実験で、自分で色々と試行錯誤して組み上げた回路が上手く動いたことに感動したのを今でも覚えています。また、母の知り合いに電気工事士の方がおり、様々な現場での仕事ぶりを聞くにつれ、電気に関わる仕事に就きたいと考えるようになりました。そこで私は、工業高校の電気科に進学し、電気について深く学び、第二種電気工事士の資格を取得しました。さらに2年生の時には電気工事会社へ職場体験に行きました。そこで私は二つのことを学びました。

一つは、電気技術者の責任の重さです。電気工事に不備があった場合、感電や火災などの重大な事故が起こります。そのため、私が伺った会社では、施工後の確認と点検をとて慎重に行っていました。社員の方は、人命を守るためには確認や点検が何より大事だと言っていました。このとき私は、電気技術者の命や安全に対する責任の重さに改めて気づかされました。昨今のニュースでは、法律や規則に違反した建築工事の結果、建物の耐震強度が不足したり、建物を建て直したりする話をよく聞きます。しかしその一方で、電気工事に关わる不正や事故については、ほとんど聞くことはありません。このような電気を安心して使える社会は、電気に関わる多くの人々の安全に対する責任感によって支えられていることを私はこの職場体験で実感しました。

もう一つは、コミュニケーションの大切さです。現場で電気工事の方が、大工や水道工事の方などとよく話しているのを見かけ意外に思いました。そこではお互いの工事の計画や進捗について、情報交換をしていたのです。社員の方によれば、他の業種の方との情報交換を密にしなければ、他の工事と日程が重なって現場が混雑したり、工事の計画が遅れたりするそうです。もし、工事が遅れば顧客に大きな損害を与えることになり、会社の信頼も失ってしまいます。安全に最大限配慮しつつ限られた期間で仕事を進めるためには、コミュニケーションがとても大事だと学びました。

私は職場体験を通して、日本の電気の安全や発展は、多くの人々の責任感や協力に支えられているのだと強く思いました。これからの日本は2020年に東京オリンピック、2025年には大阪万博が開催される一方で、少子高齢化が進み、人口も減っていくだろうと言われていています。そのような状況で、これからの電気の安全や発展を支えるのは私たち若い世代です。私は電気技術者として、日本を支える太い柱になりたいです。そのために、残る学校生活では、仲間とコミュニケーションを取りながら学校行事や部活動等に積極的に取り組み、責任感とコミュニケーション能力を高めていこうと思います。加えて、第一種電気工事士と第三種電気主任技術者の資格取得に向けて学習を進めながら、電気に関する専門的な知識をさらに身につけていくつもりです。こうした努力を積み重ねて、多くの人々と協力しながら社会の安全と発展を担う電気技術者になりたいです。